

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

相模原市立中野中学校

【取組内容】 生徒が分類・整理するよさを見つけ出す情報活用能力の育成

2年 国語科「単語ごとに共通する特徴を見つけ、分類する」

<生徒の変容>

ICTの活用前は、共通する単語を教科書に直接色分け等をして分類したり、ワークシートに記入したりすることで分類をしていた。

ICTを活用するにあたり、分類の仕方を教師が教え込むのではなく、生徒同士でどのようにまとめると分かりやすくなるのかを相談し合うことで、生徒が思考しながら情報活用の知識を学ぶことができた。

「デジタルホワイトボードソフト」を活用し、単語を直感的に操作ができることで試行錯誤がしやすいようにした。また、話し合いを通して結論に至らなかったものに関しては「？」のスタンプを活用することで受け取り手にも分かりやすい情報整理を意識することができた。

条件をいつでも確認ができるように提示している。大まかに提示をすることで考える余白を設ける。



友だちと対話をしながら分類・整理をすることで互いの思いを確認しながら試行錯誤ができる。

生徒が編集している内容をテレビに投影し、指導がしやすい環境を整える。

